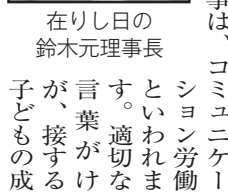




社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館
発行人／池田巍義
編集人／湧井規子
〒457-0805
名古屋市南区三吉町6丁目17番地
TEL／052-612-3370（本部）
FAX／052-611-9085
URL／<http://shakaikan.com>
E-mail／honbu@shakaikan.com

(ヨハネによる福音書 10 章 11 節)



私たち福祉の仕事は、コミュニケーション

した。YMCA総主事という重責を担いながら、いつも私たち現場とともにいて下さったとの印象があります。前向きな現場意見に対しては、これを信頼し、指示して下さいました。責任はもつからやってごらん、そうした言動に励まされ、当時の状況では夢物語のような将来計画構想、保育園園舎建て替え、地域療育センターなどが実現できたのだと思い起こされます。求めようとして目標に向かって一生懸命頑張つてごらん、その目標が神様の意向に沿うことであれば、きっと実現できるよと、この聖句でもって語りかけてくれているのだと感じ、勇気づけられ、情熱は強められのだと思ひ出されます。

発する言葉、文章で表す言葉、今年は、言葉の力を高められるよう職場ぐるみでとりくんでみたいなと密かに思っています。

谷川 修（常務理事）

求めよ、さらば与えられん

私ども、名古屋キリスト教社会館に
関わる皆さま方には、昨年一年大変お
世話になりました。心より御礼申し上
げます。今年は、いよいよ東部地域療
育センターが新たにオープンする年と
なります。年頭にあたり、改めて初心
にかえり、地域のニーズに応えて福祉
事業に一層邁進する所存です。どうぞ、
宜しくお願い申し上げます。

長を助け、人々の人生、暮らしを豊かにします。不適切な言葉は、その真逆な結果をもたらしてしまいます。『口は災いのもと』といいますが、まさにこれがこれです。多くの方が、口は災いのものを経験されておられるのではないでしようか。私もその一人です。年を重ねるにつれ、その頻度は少なくなってきたように思うのですが、後になって反省することしきりです。

自分は、それほどの意図や意識もせずに発した言葉が子どもの心に残り、その成長に良い影響をもたらしたらしい話を聞くことがありました。学童保育の指導員時代に接していた子どもが成人して久しぶりに会った時に、そんなエピソードを語ってくれたのです。改めて自分たちの言葉のもつ意味の大きさに驚きました。良い影響を与えた言葉ばかりなら良いのですが、その逆で、子どもを悲しませたり、不愉快な思いにさせた言葉を発したのではないだろうか。おろそかにはものは語れないぞ、襟を正す、そんな思いにかられます。

福祉の仕事に限らずとも、言葉は、人々に計り知れない影響を与えるとともに、社会を、歴史をも動かしていきます。鈴木元理事長を思い出すとき、言葉が力をもつということは、その発する人の人格、その人となりによるのだということを思います。鈴木元理事長のもと、温かくて大きな懷に抱かれ、仕事ができただけことは私たちの財産です。年を重ね、当時の鈴木先生のような役割を担わなければならない立場となっていると自覚はできても、到底同じようにはできない、足元にも及ばない、鈴木先生はとてつもなく大きな存在でした。せめて、その遺産をきちんと記憶し、職場の文化、風土として継承できるようにしなければと思うばかりです。

1. すべての人々がかげがえのない存在として人権が保障され、自立した人間として成長していける社会を築くことをめざします。
2. 隣人とのであい、ふれあい、そだちあいを大切に、ともに地域の課題を担うことを通して福祉の輪が広がるように努めます。
3. 世界の人々との交わりを通して、福祉社会の実現のために働きます。

池田	湧井	谷川	長田	野村	近藤	内藤	磯部	白石	加藤	下妻	柴田	朝比奈	加藤	笠嶋	加藤	吉田	藤原	松岡	三好	渡辺	岡村	佐藤	鳥井	近藤	佐藤	小林	小早川	湯浅	渋谷	磯部	仲田
巍義	規子	修	圭子	直子	義三	昌治	淑江	峯子	幸美	謙治	明宏	泰	考一	美和子	節子	茂樹	まり子	禎子	紀久子	恒義	智子	一夫	真由美	康光	牙子	弘江	登	文平	徹	輝	

謹賀新年

木しず子



デイサービス友・愛

デイサービス友居宅介護支援事業所
配食サービスゆうの里



新春のお慶びを申し上げます。

高齢事業部、デイサービス友・デイサービス愛・社会館居宅介護事業所をご利用いただいている地域の利用者さんは、現在百六十名いらっしゃいます。

十五名定員のデイサービス友の誕生から十八年になります。

配食サービス「ゆうの里」は年間約八千食のお弁当をお届けしています。お弁当を置いてくるだけでなく、一人暮らしの高齢の利用者さんに「おげんきですか!」と声かけながら体調や、安否を確認させていただいています。

社会館の理念「地域とともにあゆむ」中で高齢事業もそだてていただきました。

今年も新年会をスタートに、春祭り・お花見会・夏祭り・運動会…と季節を愛でながら文化行事を楽しんでいただきたいと思います。

「介護」とは、おもてなしやお世

話するだけでなく、利用者さんの自己決定と選択を尊重し、生きてきた人生を共に喜びあえるものにしていきたいと思っています。

二〇〇〇年に始まった介護保険制度は年々、利用しにくいものへと移行しています。二〇一五年には要支援の利用者さんが楽しみにしているデイサービスの利用ができなくなったり、特別養護老人ホームへの入所がより制限されます。居宅の相談や書類作成までお金を取るというものです。

高齢者の方々が「生きててよかった」と思える社会を求め続けていくために、職員一同学び、力を寄せ今年も頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(高齢部部長 小早川弘江)

TEL 612-3077
FAX 611-9085



名南ユースセンターA.C.T

ちどり児童会



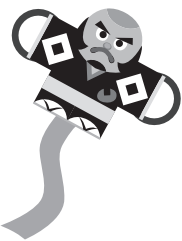
多くの人とつながり、

支えられている子どもたち

昨年十一月の「社会館バザー」では中央舞台の取り組みと共に、六年生の「綿菓子」・高学年を中心とした「喫茶店」・全学年の「アイロンプーズ」と「玉入れゲーム」のお店を開店しました。お金のやりとりと緊張したり、完売を目指す出張販売もしながら、収益を得る事の大変さと働く事(労働)の喜びを学ぶ貴重な体験をする事が出来ました。

ちどり児童会のお店には、学校の友だち・学童を卒業したOB・父母・社会館の関係者等、子ども達の声掛けや応援も含めてたくさんの方々に来ていただきました。改めて学童の子どもたちは多くの人とつながり、

(指導員 楠木 徹)



TEL 612-1346
FAX 611-9085



発達センターちよだ

児童デイサービスちよだ



まさに新たな出発

新しい年。ついに「東部地域療育センター」がオープンします。二か月遅れの六月開所となりますが、念願の開所です。利用される方々にはご不便をおかけしますが、新しい東部地域療育センターの誕生の日を迎える喜びを分かち合えればうれしい限りです。

四、五月は建物はありませんが、名古屋市の「中央療育センター」と協力体制をとって「発達センター」で療育を開始します。

六月以降も発達センターちよだは残り、四〇名定員の東部地域療育センターができて解消しない待機児の対策としても重要な役割を果たします。東部地域療育センターと発達センターちよだで力を合わせて名古屋市東部エリアの療育システムの拠

点としての役割を果たしていきます。東部地域療育センターを運営するにあたっては、法人内の他の施設の職員を含む多くの新しい仲間と仕事を一つにつけていくことになります。「ちよだで取り組んでいることを引き継いで新しい仕事も作っていきたい」。ちよだ二年目の職員の声を聞いて強く励まされています。

子どもたちや保護者に直接かわつて、地域の関係機関の方たちと手を携えてやってきた、発達センターちよだ十一年の実践を財産に、若い仲間とともに良い実践を積み上げていきます。

(園長 加藤 淳)

TEL 792-7277
FAX 792-7258



南部地域療育センターそよ風

愛育診療所 児童デイサービスA.C.T
子どもセンターみどり



いつでも、安心して相談でき、

子どもたちの笑顔あふれる療育センターをめざします。

そよ風は、発達や育ちに心配なことがある時、相談ができ療育を受けることができるセンターです。昨年は、相談の希望者が増加し、待機期間が最長六か月になりました。初診を、早く行つため相談枠を増やしたり、初診の前に療育グループを開始することを実施してきました。通園部は定員四十名です。通園部の子どもたちは、毎日の活動や運動会などの行事で、主体的に物事に取り組もうとする姿を見せてくれ、安心して毎日通える場のあることの大切さを感じさせられます。

しかし、通園部を希望する児童も年々増加し、三歳児の希望児が入れるかどうかという状況です。もともと通える場を広げること、療育の内容を高めていくことが課題です。

発達に遅れのある場合、〇歳から二歳児という時期も丁寧なかかわりが必要な時期です。二歳児を対象とした「みどりそよ風」(児童発達支援事業所、定員十名、週二回親子通園)を、昨年五月に緑区徳重に開設しました。親子で安心して通える場所があることで、子どもたちの育ちが大きく変化することを実感しました。今年も、地域の関係機関と協力協働して地域の療育力を高めあい、専門的な療育の向上をめざしていきたいと思っています。

(発達センター 部長 下妻 幸美)

TEL 612-3357
FAX 612-3411



発達センターあつた

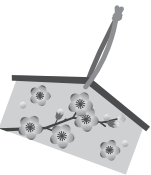
児童デイサービスあつた



今年もつながりを大切にあつたの輪を広げよう。

昨年は、発達センターあつた十周年を迎え、九月に毎年開かれる地域の人も呼びかけたお祭り、「あつたのかーニバル」で、今までの十年の歩みを振り返ってきました。「あつた」があつてほんとによかった。「あつた」があつてよかった人たちの思い、今までつながってきた人たちの思い、「お日様があつてよかった」と子どもたちのために日照権を守る運動にご支援くださった皆さんの思いに感謝しながら、今年もまた、「あつた」にかかわった人たちとともに手を結び歩んでいきたいと思っています。

「あつた」はあつたかいいところだね」ってみんなが言います。子どもたちに大切なことは、子どもたちの心の中にあるものをつかみ、受け止めて引き出してあげることだと思います。何かができるようになるという



(園長 佐藤美智子)

TEL 681-1167
FAX 681-1178



ヘルパーステーションぴぽと

ショートステイぴぽと
南区障害者地域生活支援センター・ぴぽと相談支援事業所



障がいのある仲間たちの地域生活の拠点に!

土曜日・日曜日になると、要町のバス停には、障がいのある仲間たちとヘルパーが集まります。仲間たちは、日常と違う時間が始まることに胸躍らせています。こうした光景が、日常的になってきたことを実感します。

平成十五年に支援費制度が始まり、休日にヘルパーと一緒に外出することができるようになりました。十年が経過し、障がいのある人たちが、休日に外出することをよく見かけられるようになりました。公共交通機関も仲間たちが利用しやすいように、エレベーターの設置がすすみ、段差の少ない街に変わってきました。

仲間たちと一緒に外出していると、エレベーターの扉が閉まらないように押さえていただいたり、段差を上げる場所で一緒に車いすを持ち上げのお手伝いをしていただいたりして



TEL 613-1306
FAX 746-0873

(所長 神谷友之)

